

2019年度 自立活動摂食研修

障害のある人たちの

口腔ケア

8月26日(月)13:30~15:00

自立活動担当 熊代由紀子

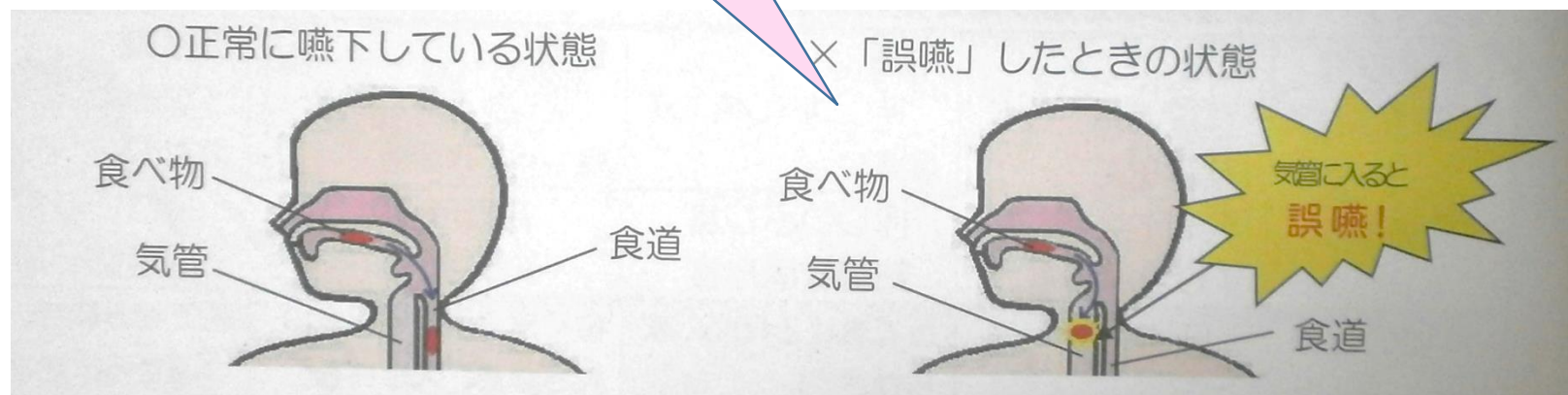
体験 お茶を飲む

さらさらの
水はむせやすい

②

口が、舌が動きにくい子の経験！

①普通に飲む



「肢体不自由ハンドブック」(和歌山県教育委員会発行)より

②口が閉じない状態

③舌が緊張し奥にある状態

④舌がだらりとして下の歯の根元にある状態

⑤舌が唇まで出ている状態

⑥下顎が上下に動く状態

⑤普通に飲む

(→舌の先はどこにありますか)

(→舌で水をどのようにしてますか)

口腔ケア 目的

③

- ① 歯や口腔粘膜、舌などの汚れを取り除くこと
- ② 口への刺激やマッサージにより口腔機能を高めること

楽しく、気持ちよく、
口腔ケアを受けることができる。

支援者と良い関係で過ごす。
支援を主体的に気持ちよく受け、健康管理をする。

これって重度の障害児の
「キャリア教育」と
いえるのでは…！？

* キャリア教育の「自己理解・自己管理能力」「人間関係形成・社会形成能力」に関係するのでは…

口の中を刺激

- ・口腔内の清潔→誤嚥性肺炎の予防
- ・**口腔機能の改善・増進**
(例 飲み込み機能の向上)
- ・脳神経の刺激により
食べる機能 話す機能に影響
- ・生活リズムを整え、全身の健康を守る

口の機能

- ①食べる
- ②ことばをつくる（発音・構音）
- ③表情・外観
- ④呼吸する
（口呼吸・鼻呼吸）
（発音の機能にも重要）

口の機能

⑦

歯

かみ切る 引きちぎる すりつぶす
発音に使う(特に「サ」行)

舌

咀嚼や飲み込む時の食塊形成の運動
味覚 発音の大部分に使う。

唇

触覚により食べ物の堅さ・大きさを判断
食べこぼさない。呼吸、かみ合わせ、表情に関係
発音に使う(「マ」「パ」)

口の機能

⑧

口蓋

硬口蓋→食べ物を押しつぶす
軟口蓋→挙上により鼻腔への
逆流をふせぐ
(鼻咽腔閉鎖機能)

唾液

唾液腺から1日1～1.5リットル出る
消化を助ける 味覚を促進させる
食べかすを洗い流す
発音をスムーズにする
口の中の細菌の繁殖を抑える

障害児に多い歯のトラブル

⑨

口の中の細菌

寝たきりや重い障害などで十分な口腔ケアができない場合、口内細菌が増えて歯肉炎から肺炎まで様々な炎症を引き起こす原因となる。

経管栄養でも、嘔吐すると、
口の中に油っぽい物が付く

障害児に多い歯のトラブル

不正咬合

歯列不正

高口蓋

開咬

虫歯に
なりやすい

磨きにくい
自浄作用も
働きにくい

指吸いや
舌突出でもなる

障害児に多い歯のトラブル

むし歯

汚れが原因で進行。
歯がなくなっていく

歯周病 歯茎の炎症
腫れ 出血 歯が動く
歯の喪失

脳性麻痺による筋緊張は、強い咬合圧となる
抗てんかん薬により歯肉増殖することもある

問題点

→ **困難な日常の口腔清掃**

過敏 不随意運動 咬反射など

障害児に多い歯のトラブル

歯の異常の例

脳性麻痺などの筋緊張
→歯ぎしりによる咬耗(こうもう)

エナメル質形成不全

虫歯に
なりやす
い

前歯の外傷

てんかん発作などの転倒や
挿管時に歯が折れるなど。

歯が抜ける

痰の吸引時の刺激で嘔
吐反射を誘発し嘔吐。胃
酸で歯が溶ける。

障害児に多い その他 口の中のトラブル

摂食・嚥下機能障害

脳性麻痺や重度知的障害など
口腔機能(咀嚼・嚥下など)の発達が獲得しにくい
舌突出嚥下 食べこぼし よだれ
開咬 上顎突出など不正咬合も引き起こす

構音障害

舌の動きの未熟、口唇閉鎖が難しいと構音障害が起こる。
舌小帯が短いと「サ」行、「ラ」行が発音しづらい

粘膜の疾患

脳性麻痺など、口の中をかんで傷になりやすいと口内炎がしやすい。全身状態の悪化でも粘膜炎を引き起こしやすい。

過敏と緊張が続く
(>O<)

歯磨きを嫌がる

口腔内の過敏
筋緊張により開口が難しい
咬反射で閉じてしまう

脱感作と脱感作をする人との
関係作りが大切

感覚って？

⑭

感覚統合からの説明

人間の発達・行動を**脳の感覚情報の統合**という視点で理論を作った。(アメリカの作業療法士 エアーズ博士)

脳が**発達**する3つの大前提

「楽しい活動」

「ちょうど良いチャレンジとなる活動」

「成功したときの達成感」

触覚の働き（脳の栄養）

情緒を安定させる

防衛する

識別する

身体の地図を把握する

感覚って？

感覚統合の3大原則

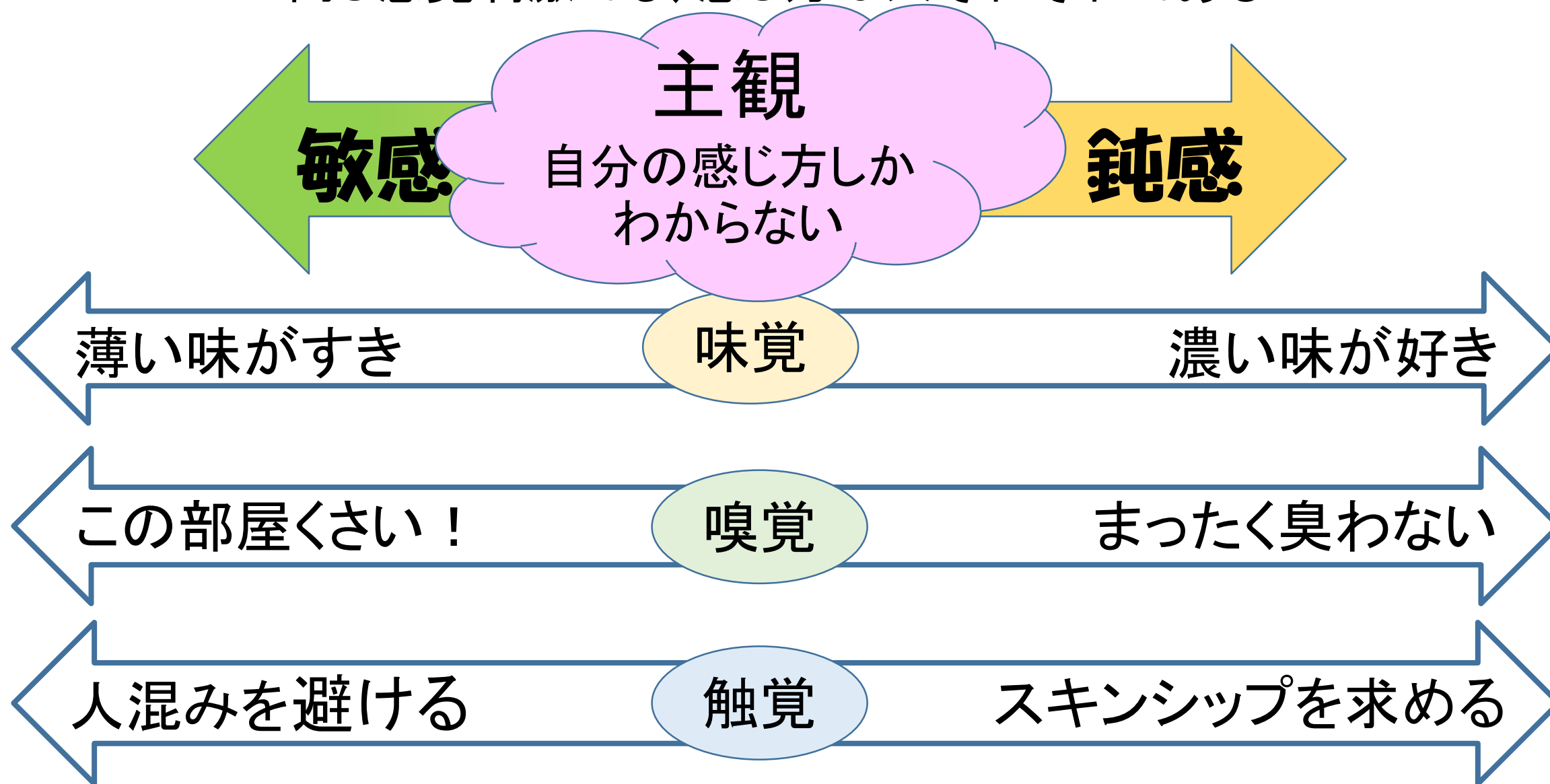
「感覚は **脳の栄養**」

「感覚入力には **交通整理**が必要」

「感覚統合は **積木を積み上げる**ように発達する」

感覚の感じ方

同じ感覚刺激でも、感じ方は人それぞれである



過敏で困ること

普通の感じ方では出ない行動が出る。

逃げる 怖がる 不安になる
 用心深い
 一人でいることを好む
 注意力散漫
 衝動的・攻撃的に見える傾向

体の動かない子(肢体不自由児)は
 →眠る、意識を閉ざす(一見して脱力)などもみられる

嫌なことを、不安な
 ことを体験し続けると
 どうなるの？

トラウマ
 になる？

慣れてくるの？

過敏が
 治る？

我慢を
 覚える？

ずっと我慢
 できるの？
 我慢しない時っ
 てあるの？

脱感作(過敏の除去)って大切

脱感作

もともとはアレルギー疾患の治療法の一つで、過敏性の原因となるアレルゲンを少量投与して少しずつ過敏性を減弱させる方法から、口腔周辺の感覚過敏の状態を除去する方法として使用されている

口腔ケアでの「脱感作」のポイント

- ① **段階的**に実施
- ② 点でなく**面**で接する
- ③ 動かさずにじっくりと
- ④ 中心に行くほど過敏が強い
- ⑤ 奥から前、下から上
- ⑥ 数多くする
- ⑦ **精神面の確認**

脱感作(過敏の除去)って大切

⑳

いきなり
歯ブラシは
しない

口の脱感作の順番(例)

手を使って、ゆっくり優しく反応
に応じて手指の動かし方や力
加減をコントロールする

①体全体のリラクゼーションと脱感作

手首→腕→肩

②口の外から

頬→顎→下唇→上唇

③口の中へ

頬左右→下顎歯肉→上顎歯肉

脱感作のポイント

②1

脱感作をする人
との
暖かい信頼関係
作りが大切

子どもは楽しい気持ちに支えられているか
子どもが主体的な気持ちになっているか
心地よい関係性があるか
丁度良いチャレンジのレベルになっているか
(スモールステップの度合い)
機会(回数)は適切か
大人の感覚で対応して、それが
子どもの「いきなり」になってないか。

「脱感作＝感覚が育つ＝脳が育つ」

口腔ケア

口腔ケア用品

歯ブラシ

ヘッドの小さい物
小回りがきく
毛が外にはねていない物

歯磨き剤

どうしても必要な物ではない。
ぶくぶくうがいができるかどうか。

付けすぎに注意。泡立てて
しまい、磨けているかどうか
わかりづらい。

フッ素入りのものが多い

保湿剤

口が開いていて、口の中が乾燥している。
唇の荒れのひどい時に、口腔ケアの前後に使用

スポンジブラシ モアブラシ

うがいのできない子は、
これでお口の中を拭き
取る。

汚れのひどいときは、
歯磨きの前に拭き取
ることも必要。

咬反射のある場合は
スポンジは注意。

スポンジをかみちぎること
がある。

口腔ケアの順序

- ・指で頬の内側からふくらませ粘膜を排除する
- ・下の奥歯から下の前歯の外側をみがく。
- ・上の奥歯の外側をみがく。
- ・上の前歯の唇側をみがく。
- ・下の奥歯の内側、下の前歯の内側をみがく。
- ・上の奥歯の内側、上の前歯の内側をみがく。
- ・下のかみ合わせ、上のかみ合わせをみがく。
- ・舌を歯ブラシやスポンジブラシで清拭する。
- ・スポンジブラシなどで汚れを取る。うがいができる子はブクブクうがいをする。